

# 除草剤による ナガエツルノゲイトウの防除について

加西農業改良普及センター  
地域課 普及主査 相川慎一郎

## 農地でのナガエツルノゲイトウ発生状況

水系(用排水路)を介して拡大



水口から本田に侵入



水路の泥上げから畦畔に定着

# 農地でのナガエツルノゲイトウ発生状況

草刈り等の断片化により、拡大・定着



フレールモアによる  
草刈りの断片が定着

3

# 農地でのナガエツルノゲイトウ発生状況



畦畔のナガエを刈り取っても  
1か月程度で再生する



ひとたび農地に定着すると物理的な除去は困難  
⇒除草剤により、密度を抑えることが必要

↑ 地際から再生

4

# 除草剤は効かないのか？ ～現地試験の結果～

発生地区の畦畔にて以下の除草剤の効果確認を行った。

## ■ ラウンドアップマックスロード

- ・茎葉処理剤(葉や茎から吸収されて枯らす効果がある薬剤)
- ・根まで枯らす効果がある。

## ■ ロイヤント乳剤

- ・茎葉処理剤。地上部を枯らす効果。
- ・畦畔だけでなく、本田で中後期剤として使用可能。

## ■ カソロン粒剤4.5

- ・土壤処理剤(土壤表面に処理層が形成され根や芽を枯らす薬剤)
- ・春先に散布して地下部を枯らす効果がある。

5

## 除草剤試験結果（ラウンド“アップ”マックスロード）

- ・散布5日後には葉が黄化してしおれ、10日後には地上部は枯死。
- ・しかし、21日後に地際付近から再生芽を確認。その後、再度繁茂。

⇒地上部は枯れたが、根まで枯らす効果は確認できなかった



# 除草剤試験結果（ロイヤント乳剤）

- 散布数日で葉が黄化、10日後には葉が落ちて茎だけになった。
- 散布4週間後に地際、一部の節から再生芽を確認した。
- ナガエツルノケイトウ含む広葉雑草に高い効果。イネ科雑草は残る。

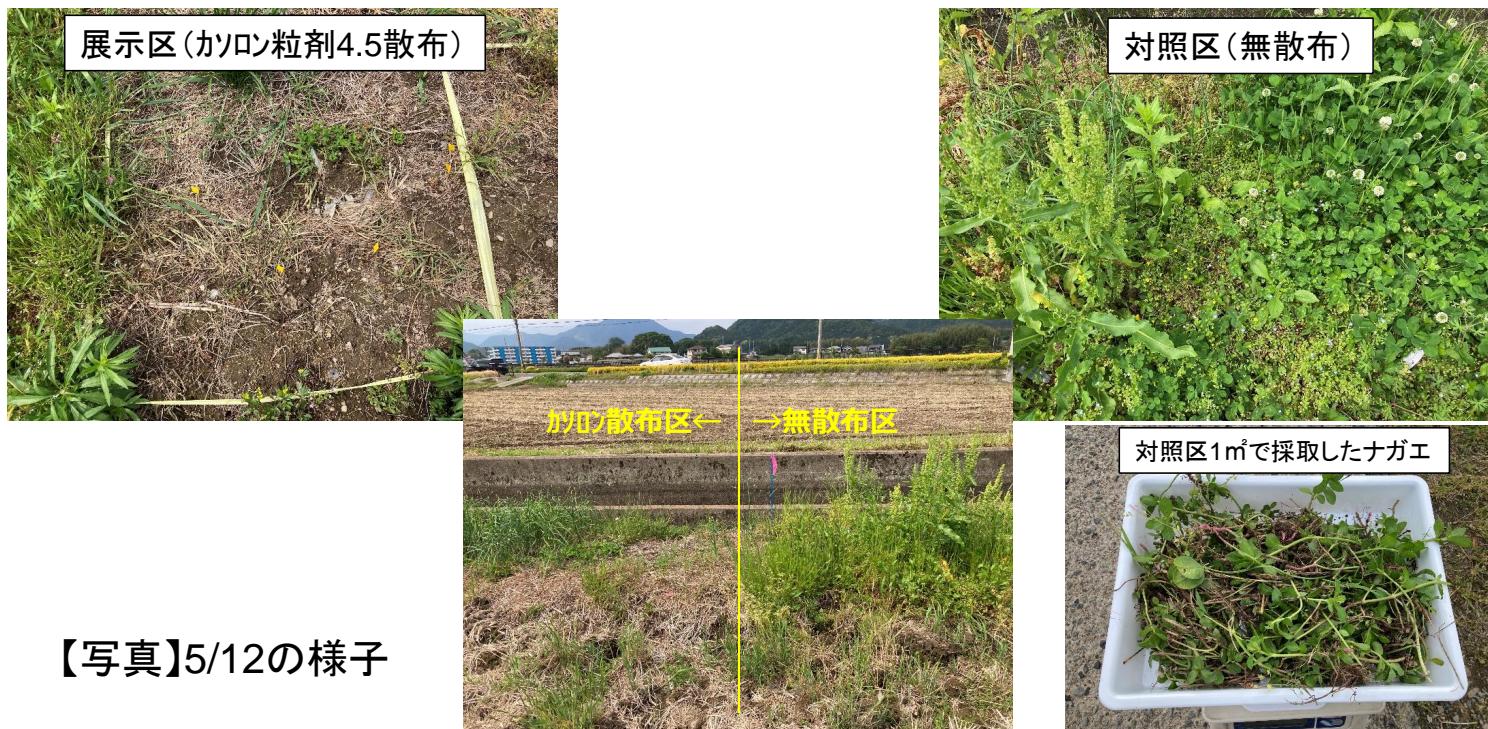
⇒地上部を枯らす効果は確認された



7

# 除草剤試験結果（カソロン粒剤4.5）

- ナガエツルノケイトウ発生畠畔にて萌芽まえの3月中旬に散布
- 対照区（無散布）では4月3日に萌芽し、繁茂したが、カソロン散布区では5月下旬まで発生を抑えられた。



# 除草剤は効かないのか？ ～現地試験の結果～

## 【現地試験でわかったこと】

### ■ 除草剤は一定の効果がある

茎葉処理剤で地上部を枯らすことができる

土壤処理剤で萌芽を遅らせる、密度を減らすことができる

### ■ 1回の散布で根まで枯らして絶やすことはできない

## 【除草剤による防除のポイント】

### ■ 薬剤の特性に応じたタイミングで散布する

茎葉処理剤は茎・葉にしっかりとかかるように散布する

土壤処理剤は適切な時期に散布(カソロン粒剤…春先)

### ■ 除草剤の体系処理で密度を抑えることが重要

9

## 除草剤による防除技術について

- 農研機構が2025年5月に防除マニュアルを作成
- 2025年の農業技術10大ニュースに選ばれている

**農研機構**  
農林水産省委託プロジェクト研究  
「農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発」

**水田における  
ナガエツルノゲイトウ防除マニュアル**



2025年5月

**TOPIC 1 2025年農業技術10大ニュース (農林水産省農林水産技術会議事務局)**

### 地下まで効く！ナガエツルノゲイトウ防除技術 —まん延を防いで、生産者の負担を軽減—

**成果のポイント（ここがスゴい！）**

- 水稻移植栽培期間中に使用可能な除草剤18剤について、ナガエツルノゲイトウに対する防除効果を検討し、3つの体系処理を開発。
- 開発した除草剤の体系処理を2年間継続すれば、まん延した水田でもナガエツルノゲイトウの地下部まで駆除が可能。
- 本技術を活用することで、ナガエツルノゲイトウがまん延した水田での雑草害を軽減することに加え、水路を介した未侵入場所への分布拡大防止が期待。

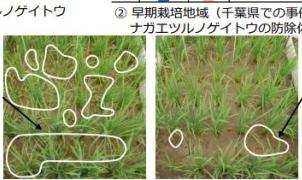
研究機関：農研機構、千葉県農林総合研究センター、神奈川県農業技術センター

月	移植時期	ナガエツルノゲイトウ	実証体系の例	効果のタイミング（目安）
4月下旬	代わき			
5月上旬	移植	再生地	（マメスフロン・オオサザンフローレン・ビニカルニ・プロモテクト剤）	ナガエツルノゲイトウ再生地
5月下旬				
6月中旬	移植約40日後	再生地	（コロカルタクタクションヘンジタ系剤）	ナガエツルノゲイトウ草丈35cm以下
7月上旬	中もし			

① ナガエツルノゲイトウの外観



② 早期栽培地域（千葉県での事例）の水田におけるナガエツルノゲイトウの防除体系



ナガエツルノゲイトウの生きた茎が水田の地表面に見られない。

**導入により期待される効果**

生産者の手取り除草等の追加的な作業を省きつつ、水田内のナガエツルノゲイトウの地上部の生育を抑制し、分布拡大を阻止。

連絡先 農研機構 植物防疫研究部門 研究推進室  
TEL 029-838-6876

10

# 本田内の除草剤体系

## 【栽培期間中】

ナガエツルノゲイトウに有効な除草剤2~3剤を処理する「体系処理」を行う。

## 【水稻収穫後】

収穫後約1か月後以降(刈取後ナガエが再生するタイミング)～霜が降りるまでに「非選択性除草剤」を処理し、その1か月後以降に耕起する

主な区分	成分名	商品例
初中期剤	ピラクロニルを含む薬剤	(初期剤)ピラクロン1キロ粒剤 (一発処理剤)バッチャリLX1キロ粒剤 エンペラー1キロ粒剤
中後期剤	フルビラウキシフェンベンジルを含む薬剤	ウイードコア1キロ粒剤 ロイヤント乳剤
水田刈跡	グリホサートを含む薬剤	ラウンドアップマックスロード

11

# 本田内の除草剤体系

・栽培期間中の「体系処理」、収穫後の「除草剤処理と耕起の組み合わせ」で密度を低下させる

月	旬	栽培(極早生)	管理	推奨体系案1	推奨体系案2
4	中下		入水	代かき	
5	上	移植		初期・ 初中期一発剤	【初期剤】 ピラクロニルを含む剤 例)ピラクロン1キロ粒剤
	中			中後期剤	【中後期剤】 フルビラウキシフェンベンジルを含む剤 例)ウイードコア1キロ粒剤
	下			中後期剤・ 後期剤	【中後期剤】 フルビラウキシフェンベンジルを含む剤 例)ロイヤント乳剤
6	上 中 下		中干し		
7	上 中 下				
8					
9		収穫			
10			非選択性除草剤	【非選択性除草剤】 グリホサートカリウム塩液剤 例)ラウンドアップマックスロード	【非選択性除草剤】 グリホサートカリウム塩液剤 例)ラウンドアップマックスロード
11～			秋耕起		

# 畦畔の除草剤体系

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
除草体系①	 カソロン 粒剤4.5				 (臨機) ラウンドアップ マックスロード			 ラウンドアップ マックスロード	

3月 ナガエツルノケイトウ萌芽まえの3月中旬頃に土壤処理剤(カソロン粒剤)を散布。

6~8月 ナガエツルノケイトウやその他の雑草の生育が旺盛な場合に、臨機防除でラウンドアップマックスロードを散布。

10~11月 地下部への養分蓄積を防ぐため、降霜でナガエツルノケイトウが枯れる前にラウンドアップマックスロードを散布。

13

# 畦畔の除草剤体系

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
除草体系②	 カソロン 粒剤4.5			 ロイント乳剤 (水田・畦畔)	 ザ クサ液剤 or 草刈り			 ラウンドアップ マックスロード	

3月 ナガエツルノケイトウ萌芽まえの3月中旬頃に土壤処理剤(カソロン粒剤)を散布。

7~8月 ロイント乳剤を水田・畦畔同時散布(本田内と畦畔の両方に登録がある)

8月 畦畔にイネ科雑草が残っている場合、カメムシ等の対策のため、イネ科雑草の除草効果が高いザクサ液剤等を畦畔に散布する。または、ナガエツルノケイトウ以外の雑草を高刈り(地表から10cm前後)する。

10~11月 地下部への養分蓄積を防ぐため、降霜でナガエツルノケイトウが枯れる前にラウンドアップマックスロードを散布。

14

# 除草剤を使う上の注意点

## ■ ラベルの記載事項を守る

適用場所や時期、散布量、回数等ラベル記載事項を遵守する

例) ラウンドアップマックスロード

作物名	適用場所	適用雑草名	10aあたり 使用量	10aあたり 希釈水量	使用時期	本剤 使用回数	使用方法	グリホサートを含 む農薬の総 使用回数
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	多年生雑草	200~ 1000mL	通常散布50~100L 少量散布25~50L	収穫前日まで (雑草生育期)	3回以内	雑草茎葉 散布	3回以内

## ■ 農薬として登録されている除草剤を使用する

- ・「農林水産省登録第〇〇〇号」とボトルに記載のある除草剤を使用する。
- ・農薬登録のない除草剤は、「農薬として使用することができません」や「非農耕地用」等の記載があり、農作物や樹木、芝、花き等の栽培・管理に使用することが法律で禁止されている。



## ■ 河川や水路、ため池へ流出しないようにする

- ・水路等へ飛散しないように配慮(飛散防止カバー等)
- ・残った散布液や洗浄液が水路や河川に流れないように処分

15

除草剤を正しく、効果的に使用して  
ナガエツルノゲイトウを防除しましょう

### 【防除方法に関するお問合せ先】

下記または最寄りの農業改良普及センターにご連絡ください。

兵庫県農林水産部農業改良課 電話：078-341-7711（内線74314）

兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター農産園芸部（主作部門）

電話：0790-47-2410